

IoT 環境に適したハッシュ連鎖による認証

情報科学部
システム工学科

准教授 **双紙 正和** Masakazu Soshi

教員情報



キーワード

セキュリティ、認証、IoT、ハッシュ関数、ハッシュ連鎖

研究シーズの概要

本研究では、ハッシュ連鎖の新しい構成法（ハッシュ連鎖アグリゲーション）を提案し、柔軟で効率の良い認証を実現します。特に本研究で実現する認証は、効率がよく、IoT 環境（計算機リソースが乏しくデジタル署名が困難な環境を想定）における相互認証に適しています。

研究シーズの詳細

◆研究例◆

（暗号学的）ハッシュ関数は、一方向性を持ち、効率よく計算できる関数です。また量子コンピュータに対しても安全ということから、近年注目されています。このようなハッシュ関数を利用した技術として、ハッシュ関数を繰り返し適用した、ハッシュ連鎖と呼ばれる技術があります。ハッシュ連鎖は、ワンタイムパスワード、ブロックチェーンなどに利用される、重要な技術です。本研究では、ハッシュ連鎖の新しい構成法（ハッシュ連鎖アグリゲーション）を提案し、柔軟で効率の良い認証

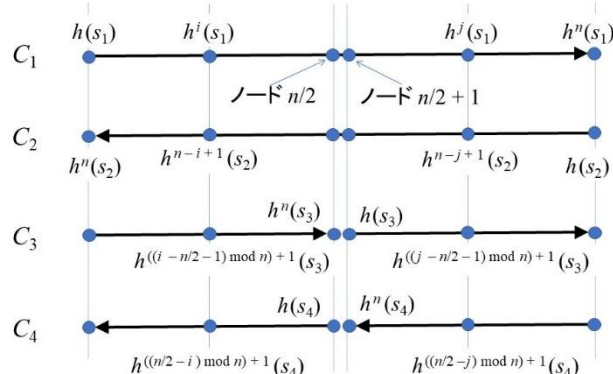


図 1. ハッシュ連鎖アグリゲーション (n = 4)

を実現しました（図 1 参照）。ここで、図 1 では、 h は一方向性ハッシュ関数、 s_1, s_2, s_3, s_4 はそれぞれハッシュ連鎖の初期値を表します。そして、 $n = 4$ のハッシュ連鎖アグリゲーションでは、 i 番目のハッシュ値の組み合わせを、 $h^i(s_1), h^{n-i+1}(s_2), h^{((i-[n/2]-1) \bmod n)+1}(s_3), h^{((n/2-i) \bmod n)+1}(s_4)$ の 4 個の値からなる組み合わせとすることができます（一般の n では、より複雑な構成となります）。こうして、図 1 では 4 方向のハッシュ連鎖を構成できます。一方、ワンタイムパスワードなどの従来のハッシュ連鎖は、一方向のみしか考えられません

でした。
本研究で提案するハッシュ連鎖アグリゲーションの大きな利点は、デジタル署名を使わず、ハッシュ関数のみを使って、相互認証を実現しているという点です。そこで効率よく計算を行うことができ、IoT 環境（計算機リソースが乏しくデジタル署名が困難な環境を想定）における相互認証を実現するのに適しています。また、ハッシュ連鎖アグリゲーションを自由に構成することができるため、さまざまな組織やグループに適した柔軟な認証を行うことが可能です。

応用例・セールスポイント

応用例：

- ◆IoT 環境（計算機リソースが乏しくデジタル署名が困難な環境を想定）における相互認証
- ◆キーエスクロー（政府や裁判所が認めた場合、ユーザの鍵を強制的に公開する）の実現
- ◆一般に、さまざまなユーザグループの相互認証やワンタイムパスワード

セールスポイント：本研究は、以下の国際会議で発表されました：

Y. Kurihara and M. Soshi. "A Novel Hash Chain Construction for Simple and Efficient Authentication." In 14th Annual Conference on Privacy, Security and Trust (PST), 2016.

◆いくつかの科研費として採択され、研究を行ってきました。現在、ジャーナル論文を準備中です。

【問い合わせ先】 広島市立大学 地域共創センター 〒731-3194 広島市安佐南区大塚東 3-4-1（情報科学部棟別館 1F）

TEL:082-830-1764 / FAX:082-830-1555 / E-mail:ken-san@m.hiroshima-cu.ac.jp